

談話室 ひこばえ倶楽部

産経新聞 令和3年(2021年)1月18日(月)

育ったわが町 感謝の気持ち

大学生 重水佑太 22

大学生生活もあと少しとなった。就職も決まり、余裕が出てきたので、地元を散歩しようと思った。

生まれてからずっと住んでいた町に、とても違和感を持った。

公園だった場所は住宅地になり、小さい頃からよく通っていた駄菓子屋が閉まっ
っていて、新しくコンビニ
ができていた。

何げなく暮らしていた地元の風景が、ガラッと大きく変化していた。「こんな
だったっけ?」と思った。

中学、高校は部活動の毎日
で、大学は奈良まで通学
して、地元をゆっくり散歩
する時間がなかったのだ。
僕は少し寂しくなった。

遊んでいた場所がなくな
り、駄菓子屋のおばちゃん
もいなくなった。

でも、私も成長したが、
この町も大きく成長してい
たんだと感じた。

小さい時の思い出がよみが
えるとともに、お世話に
なったこの町に感謝する気
持ちは湧いてきた。

(大阪府門真市)